キラリ☆輝く人たち

伝統工芸「竹工画」に魅せられて

梅田 文雄 さん(東・75歳)

竹工画をご存じですか。竹をさまざまな大きさや厚さに細工し、それらを使って絵や文字を表現する伝統工芸です。

この道14年になる梅田さんは、高度な技術と作品が評価され、2月20日に茨城県伝統工芸士として認定されました。竹工画を始めたきっかけや活動内容を伺いました。

「飛び出す絵」に感動し

梅田さんが竹工画を始めたのは2004年。市内で制作活動をしていた浅野宗一郎さん、野沢貞夫さんとの出会いでした。

竹工画を見た最初の印象はまるで飛び出す絵。立体感を出すために焼き目を付けたり、竹の削り方を変えたりして、被写体の温度感を表現している作品ばかり。その繊細な技法と二人の作品の美しさに衝撃を受けたと当時を振り返ります。

手先を使う細かい作業が好きなこともあり、市民講座にのめり込んでいった梅田さん。野沢さんと出会って弟子入りし、本格的に竹工画を学び始めました。

細部まで丹精込めて

竹の伐採から加工・販売まで、梅田さんは全ての工程を一人で行います。使用するのは8～9カ月ほどの孟宗竹(もうそだけ)や真竹(まだけ)。不要な部分を切り落とし乾燥させた後、紫外線を避けて保管します。

その後、小さくカットしたり濃淡を表現するために焼き目を入れたりします。手先のわずかな加減が作品の完成度を左右することから「竹工画は単にパーツを貼り合わせただけのものではないんです」と話す梅田さんの苦労が伝わってきます。

そんな梅田さんのモットーは伝統と革新のバランス。学んだ材質選びや加工方法を継承しつつ、親しみを持ってもらえるようイラスト風の作品作りを試みるなど、遊び心も大切にしています。

最近増えているのは家紋作り。高い技術を駆使した緻密な作業で、依頼者を喜ばせています。

竹工画の魅力を後世へ

多くの人に竹工画を知ってもらうため、伝統工芸品として教室や展示会を多方面に拡大し、活動の幅を広げていきたいと考えています。

「最大の魅力は温もりと遠近感を表現できるところ。私は60歳を過ぎて始めましたが、若い人たちにも身近に感じてもらいたい。そして、その技や魅力を次の時代へ継承する人が増えてくれるとうれしいですね」と話す匠(たくみ)の優しいまなざしが印象的でした。

▲七福神は、これまで手掛けた作品の中で最もお気に入りの自信作の一つ。今にも福が訪れそうですね

KOGAIDOL

今月の古河っ子

小見山溢喜(いつき) くん
（1歳6カ月・東山田）

歌とダンスとお兄ちゃんと遊ぶ事が大好きな溢喜くん★大好きな、はなかっぱの歌が流れるとお尻を振って笑顔で踊っています♥これからもスクスク元気に育ってね(≧∀≦)
(父：正行、母：美幸)

渡邉千優(ちひろ) くん
（2歳4カ月・下辺見）

いつも元気いっぱいな千優！日々の成長がとても楽しみだよ☆大好きなアンパンマンのように人を思いやれる優しい心を持った人になってね♫いつもたくさんの笑顔をありがとう♥(父：拓也、母：亜紀子)

齋藤理玖(りく) くん
（2歳4カ月・原町）

優しく、元気いっぱいの理玖。病気もせず育ってくれていることに日々感謝です。妹も生まれお兄ちゃんぶりを発揮しています。いつまでも素直に育ちますように♥
(父：翼、母：詩織)

柳田悠希(はるき) くん
（2歳5カ月・西牛谷）

お絵かき、トミカ、歌、絵本、ごはんが大好き！　おはなしも少しずつ上手になってきたね。大好きなものに囲まれて、悠希の笑顔の花がたくさん咲きますように♪
(父：康孝、母：江利)

高橋永煌(とうあ) くん
（2歳4カ月・女沼）

未熟児で生まれたとうあ。今ではやんちゃで3人のお兄ちゃんと元気に遊んでいます♥これからもそのかわいい笑顔でみんなを癒やしてね♥そしてこれからも元気に育ってね♥
(父：保、母：幸枝)

三木結葉(ゆのは) ちゃん
（9カ月・中田）

おてんばで暴れん坊のゆのは。いつもニコニコで愛嬌(あいきょう)のあるゆのはにパパとママは元気をもらっているよ！　これからも明るく元気に、周りのみんなを笑顔に出来る子に育ってね♥(父：伸泰、母：架奈絵)

お子さんの写真を募集中！ ＜対象＞ 0～3歳の市内在住のお子さん　＜応募方法＞ メール・電話で受付中。メールのタイトルを「今月の古河っ子応募」とし、本文に「お子さんの氏名(ふりがな)・生年月日・父母の氏名・住所・電話番号」を明記し、hisho.kouhou@city.ibaraki-koga.lg.jp(㊙秘書広報課)へ申し込みください♪